

## ① 交通対策について

本町は、コンパクトな町であり、公共交通が比較的充実した自治体であると理解しています。しかし、地区によっては移動に困難をきたしているとの意見も聞かれます。

また、高齢化に伴い、運転免許証を返納した場合、日々の買い物、通院など、生活をおくる上でどうしても必要な移動が自力では難しい方、または近い将来、そのような状態になることを想定し、公共団体による対策を求める意見は少なくありません。今後のニーズ予測と、町としてどのような対策を考えているのかを質問します。

## ② 子ども医療費助成について

30年10月から、子ども医療費助成の対象年齢が中学生までに拡大されました。制度拡充に対し子育て世帯から評価の声が届いています。一方で、役場への申請手続を簡素化してほしいとの意見が、ひとり親世帯、共働き世帯などから寄せられています。

その解決方法は現物給付化だと考えますが、「安易な受診が増える制度」という意見も聞かれます。

私は、住民のニーズに沿う施策は現物給付化であり推進すべきだと思いますが、町は現物給付を推進する立場でしょうか。

## ③ 協働のまちづくりについて

町の協働のまちづくり基本方針には、住民の孤立を防ぎ、相互交流を促進することが大切との趣旨の記述があります。

本町は自治会のほか、小学校区を基本としたコミュニティがあり、その役割を担おうとしているものと理解しています。

しかし、そのコミュニティの構成員からも、現在のコミュニティのあり方について少なくない疑問の声が出されています。

コミュニティの役割を否定するものではありませんが、町としてあり方を検証すべきとの立場から、以下の点について質問します。

(1) コミュニティは所期の目的をはたしていますか。

(2) コミュニティが自治会やその他団体の役員、幹部だけの交流組織になっていませんか。

(3) コミュニティ活動を負担に感じるという町民の声は町に届いていますか。何に負担を感じているのかの意向調査を実施する考えはないですか。

(4) 自主的な親睦、交流を促進するため開放スペース（ふれあいセンター1階のような）を設けてはどうかと考えますが、見解をうかがいます。